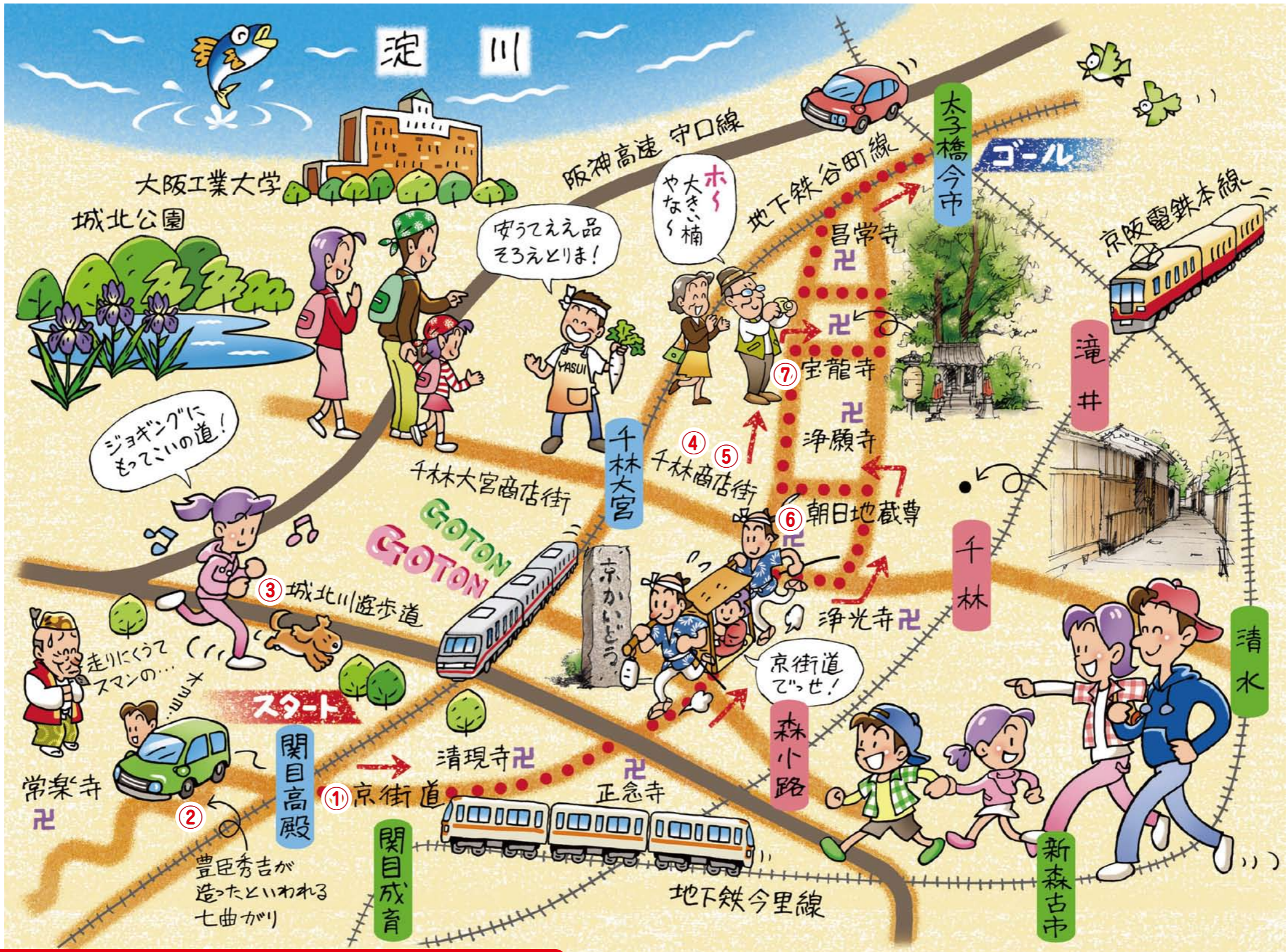


大阪は「まち」がほんまにおもしろい



旭区の歴史街道・関目から千林まで ～参勤交代のみち・京街道を往く～

旭区は、弥生時代から集落(森小路遺跡)が発生していましたが、中世以降は、大坂と京を結ぶ地として栄えました。江戸時代には三十石船が淀川を上下し、京街道が通って、参勤交代をする大名行列などで賑わいました。区名の由来は「日の出する東部」を意味するとともに、文字通り「旭日昇天」の勢いで将来の発展が約束されることから名付けられています。



① 京街道

大坂城京橋口(のちの高麗橋)を起点にして、大坂から京へ通じる古くからの主要な道路です。豊臣秀吉が文禄年間(1592～1596)に淀川左岸の堤防を改修して、堤防上に陸路を開いたのが経路でした。当初は片町～蒲生～関目～今市～守口～枚方～橋本～伏見を経て京に至っていましたが、江戸時代には参勤交代の大名行列なども往来していたそうです。千林、森小路などはこの街道を中心に栄えた集落で、森小路1丁目、今市1丁目に「京街道の碑」が建てられています。

② 七曲がり

京街道の一部で、豊臣秀吉が大坂城築城のさいに、城の上から敵兵の軍容や兵数を知るために、わざと道路を狭く、しかも曲がりくねらせてつくらせたといわれ、今もその名残をとどめています。

③ 城北川・城北川遊歩道

城北川は、寝屋川と大川を結ぶ全長5.6kmの川で、両岸には遊歩道が整備され、水辺に親しめる憩いの場として現在もなお、整備が進められています。遊歩道は、散歩やジョギングなど、多くの方に利用されています。

④ 強頸絶間之址碑(こわくびたえまのあとひ)

『日本書紀』によると仁徳天皇のころに、淀川の治水対策として「茨田堤」(まむたのつつみ)という堤防を築くことにしました。ところが堤防を築いても大雨が降るとすぐに決壊してしまいます。ある夜、仁徳天皇の夢に「武蔵の人・強頸(こわくび)と、河内の人・茨田連(あつた)の二人をいけにえとして河の神にまつれば崩れない築堤が成就する」という神のお告げがあり、この二人が人柱として選ばれました。つたは策を用いて難を逃れましたが、強頸は泣く泣く人柱にたち、堤が完成したと伝えられています。(千林商店街北側にありますが個人邸宅内にあるため、見学はできません。)

⑦ 天然記念物大楠(宝龍寺内)

樹齢約800年といわれる大楠があります。大坂城築城のとき天守閣の棟があがらず困っていたところ、豊臣秀吉の夢枕に大きな白蛇が現れ「城北の大楠の主である」と告げて消えてしまい、調べさせてみると、見たこともない大楠があるという報告に「さては神のたたりだったか」と鬼門除けの祈とうを行い「楠玉大王」をまつる「楠玉殿」を建てました。これにより、天守閣の棟が無事にあがったと伝えられています。
※お願い 大楠は天然記念物であり、お寺の御神木ですので、近づいてご覧になったり、お手を触れないようにお願いします。また喫煙については堅くお断りします。

⑥ 朝日地藏尊

この辺りには江戸時代から昭和30年(1955)頃まで、いたるところに水利や運搬のための小さな水路＝井路川が流れていました。ちょうどカーブの所に地藏尊があって、鼻に棹をさして舟が曲がったということで、このお地藏さんは鼻が欠けています。また、歯が痛い時、無言で一週間お参りをすれば治ると言われて、無事に願いが叶ったら、お礼にお酒をかけるそうです。今も地域の方々の信仰を集めています。

⑤ 千林・千林商店街

森小路や守口に隣接する樹林地帯であったようで、瀬林から転訛したとも伝えられています。大正から昭和にかけて急激に人口が増加。加えて戦後京阪沿線への大企業や関連下請け工場が進出しました。千林商店街(全長660m、両側に約220店舗が並ぶ)には、ダイエー一号店が開かれ、日本のスーパーの発祥地になりました。